

折々の記 No175 : every-day sunday !

(H23/7/2 記)

6月30日で7年有余勤めた第一生命を退社した。自衛隊と文化の違う社会で戸惑うことも奇異に感じることもあったが、曲がりなりにも防衛省総括顧問としての任務を果たし得たのは、第一生命プロパーの皆さんや防衛省顧問のお蔭であり、感謝に堪えない。



退職前には、有給をすべて消化してから等と下衆の考えがあったが、退職日が近づくにつれ、一日一日が非常に貴重なものに思えてきた。定時に鞆を持って自宅を出て、何時もの電車に乗り会社で自席のパソコンに向かうという何でもない行為が有難いものであると気づいたのである。不思議なものだが、皆同じような思いをするものなのだろうか？

さて、当日は社長への退職挨拶を終え帰宅したのであるが、直ちに農園に出掛けた。第二の定年に伴う宴会続きで、ゆっくりと作物の状況を確認もしていない(朝早く出勤前に一応は見たけれども・・・)し、草も相当に蔓延っていたので草取りもしなければならず、また何よりも活着の悪い野菜の処置をしなければならなかったのである。



さて、毎日が日曜日初日、長年の習慣か目覚めは何時もの通りである。出勤しないというのは時間的に余裕があるものだ。新聞も食事も時間をかけて可能だ。

家内は独自の世界があって毎日やることがあるようだ。今日も出掛ける。己は何をするか？退職後は暫くのんびりしたいと思っていたが、全くやることがないというのは困りものだろう。取り敢えず、畑に出掛けて野菜の状況を確認して慈しむのが日課になるのかもしれない。然し、毎日毎日そういう訳にもいくまい。

漢詩も作りたい、100 観音霊場巡りもしたい、折角NPO法人パトロールランナーズに顧問として参画もしているのだから、市の防犯パトロールに協力したり、体力錬成も兼ねてジョギングも良からうとは思っている。また引き続き投稿もする所存であるので、勉強もしなければならない。このように考えるとやるべきことは結構あるものだ。

問題は、これらを一つの週間のスケジュールとして確定しないとイケない。とは言え、防大卒業以来 42 年間、休むことなく走り続けてきたのだから、一月位のんびり

しても罰は当たらないだろう。自衛官という負託の大きな任務に邁進して35年、その延長線での7年有余も顧問というある意味では気楽な稼業ではあったのかもしれないが、第一生命の歴史的事業に立ち会えたのは幸せであり、金融機関という全く異質な分野で色々な勉強もさせて頂いた。

これからは第3の人生を如何に生きべきか、20年近くもある第3の人生なのだから、少々長く考えても良かろう。

結果的には、毎日が日曜日にはならないと予期されるが…